

けやき



〒344-0022

埼玉県春日部市大畑 652-7

医療法人社団 全仁会

東都春日部病院

TEL 048-739-2000 (代)

FAX 048-739-2003



東都春日部病院
院長：木村 理

アフターコロナを駆け抜ける！

私が当院に赴任して丸4年経ち、5年目を迎えた。この時点で見えてきたこれまでとこれからについて考えていきたい。

1. コロナのこれまでとこれから

世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は2023年5月5日「コロナ緊急事態の終了」を宣言した。

東都春日部病院においては、令和4-5年度（2022-2023年前半）もコロナに明け暮れた年であった。

これまでの約3年半の間、コロナが「旬」でなかった日々はない。

2022年2月に院内感染者が出たが、院内隔離措置が非常にうまく作動していることから、埼玉県のコロナ対策本部からは高く評価された。当院のブランドが保たれ、職員が心底喜ぶ姿が印象的であった（東都春日部病院、広報「けやき10号」に詳述）。

2022年10月の院内発生時には、同様に院内隔離政策を整然と行った。

12月の第8波では1年半前から開設してあるコロナベット使用率が100%を超える日々も続いていたが、職員全力で対応し、無事切り抜けた。透析、療養、悪性疾患、高齢者、すべての患者さんにおいて、他院を頼らず、自分たちの病院で完結させたことが何よりのことであった。当院の「自分たちでできる、この歴史的難題を克服できる」という自信ができ、自負が生まれた。

2023年に入って常勤医たち複数人もコロナ感染に見舞われ、入院や自宅監禁を余儀なくされ、稼働率は120台に下がり始めた。5月8日に2類から5類に引き下げられる。これからはコロナ補助金は期待できないものとして、ポストコロナの時代とどう対応していくかの舵取りが重要である。院内のゼロコロナは求められる。当院は高齢者、がん患者、透析患者などコロナに対して脆弱な患者さんが多いので、その対応としての「院内ゼロコロナ対策」と「補助金なし」の綱渡り問題が続いていくのである。

2. 常勤医の充実

昨年（2022年）4月に東大第一外科から谷澤健太郎先生が赴任され、消化器外科の層が厚くなり、診療・手術に余裕が出てきた。開腹手術だけでなく腹腔鏡下の膵切除や肝切除も成功させ、胃癌・大腸癌の手術など、手術の安全には心を砕いている。

また獨協医大埼玉医療センターから常勤で来られた泌尿器科の井上泰之先生の頑張りには目を見張るものがある。毎週水曜日の手術日には3-4人の手術患者さんがコンスタントにはいる。この安定性に病院は感謝している。2023年4月からは獨協医大の医局員女性たちに井上先生が手術を教える機会にもなっている。当院が教育医院としても輝いている源となっている。

次第に院内のベッド稼働数が安定するようになり始め、2022年12月にはついに木村理赴任以来最高の1日158ベッド稼働を叩き出した。地域医療に貢献している実感・充実感が職員をさらに活性化している。しかし、年が明けて常勤医たち複数人もコロナ感染に見舞われて入院や自宅監禁を余儀なくされ、稼働率は120台に下がった。2023年5月8日にコロナが2類から5類に引き下げられることも相まって、さらに救急医療や地域医療に邁進すべく、4月中旬には春日部市消防本部長にご挨拶に行き、救急車を入れていただくように要請してきたところである。院内でも医師たちが救急車を断らない体制を構築し、臨んでいる。

2023年4月1日からは長田理先生が麻酔科の常勤医として、4月21日からは中野秀鷹先生が内科の常勤医として赴任され、院内の医療体制はますます充実してきている。ますます積極的・地域医療を成し遂げていきたい所存である。

逆に影の部分としては、整形外科の八巻先生の盟友として20年にもわたって手術の助手をしてきた非常勤医の医師が体調を崩し、当分整形の手術のめどが立たなくなったことであろう。当院の外科は東大第一外科のバックアップのおかげで、充足している。泌尿器も前述の通りなので、しばらく両方で支えなくてはならない。職員全員が覚悟を持って臨んでいくべき時である。

3. 東大外科プログラム

我々は今年度から東大外科プログラムに加入した。



これにより、東大の研修医が我々の施設を研修病院として選択することができるようになる。前期研修医2年、後期研修医3年の研修医が自由に外科プログラムをこなしていく中で、この意義は大きい。

これまでは獨協医大埼玉医療センターと山形大学の外科プログラムに入っていたが、これまで送られてきた研修医は獨協医大埼玉医療センターからの2022年の1月から3月の3ヶ月間だけであった。この時の研修医の目ざましい活躍ぶりは職員の目に焼き付いているであろう。何はともあれ、渡邊利広医師の下で、毎朝9時に「先生、回診しましょ！」と言って外科回診が始まる光景は、渡邊医師の物理的・体力的・精神的力になったのは間違いない。この研修医はコロナ禍にあってもその方面でも大きな力を発揮してくれた。当院全体にも力強い貢献をしてくれたのである。

研修医が欲しいのは、大学病院を始めとしてどの病院でも必死の課題である。我々はとりあえずそのブランドと実利の可能性を手に入れたのである。

4. 東都春日部病院のこれから

職員一人一人が、現状に甘んじることなく、日々臍に力を入れて毎日精進していけば、当院の持つ力は越谷・春日部の地域医療に、この上ない貢献をするだけでなく、世界に向けた発信もするようになる。ぜひ広く青い空を見上げて、くじけずに邁進していこう。

「無事これ名馬」。職員は自己の体調を管理し、充実した東都春日部病院生活を送って欲しい。一生の中でこの病院での就業が、自己啓発、自己実現、自己の幸福の追求ができた貴重な時代となるよう、日々鍛錬し自己を磨いてほしい。



着任のご挨拶

常勤麻酔科医師

ながた おさむ
長田 理

私は今まで論理的な麻酔管理を目標に、麻酔科専門医・指導医として「爽やかな覚醒が得られ術後嘔気嘔吐が少ない」静脈麻酔薬を用いた全身麻酔の臨床・研究に携わってきました。サブスペシャリティは老年医学であり、臨床業務においては高齢社会に対応した麻酔科医を目指しています。一方で、麻酔科医は病気を治療するというより手術中の安全を管理しており、その経験を医療安全活動に役立てる機会にも恵まれました。また20年以上前から「全身麻酔の自動投与制御システム」を研究・開発しており、ようやく薬機法承認を得る段階に到達しました。一方で自分自身の健康管理は後回しになっており、年齢を考えると元気に働く

ことができる残り期間は短いかもしれません。

今までに研鑽した技術と経験を組み合わせ「質の高い安全な麻酔」を地域の皆様に安定して提供できるよう努める所存ですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

経歴： 東京大学医学部医学科 卒業
東京都老人医療センター（現・東京都健康長寿医療センター）麻酔科
東京大学医学部附属病院 手術部
東京女子医科大学病院 麻酔科
東京警察病院 麻酔科
自治医科大学さいたま医療センター 総合医学第2講座
がん研究会有明病院 医療安全管理部・麻酔科
国立国際医療研究センター病院 麻酔科
(現在) 福井大学学術研究院医学系部門 非常勤講師
(現在) 日本臓器移植ネットワーク 安全管理推進委員会、安全管理推進室アドバイザー

専門資格： 日本専門医機構 麻酔科専門医
日本麻酔科学会 麻酔科指導医・麻酔科認定医
厚生労働省 麻酔科標榜医
日本老年医学会 老年科専門医・指導医
厚生労働省 指導医養成講習会 修了
厚生労働省 緩和ケア研修終了 修了
日本老年医学会 高齢者医療研修会 修了

所属学会： 日本麻酔科学会
日本臨床麻酔学会
日本老年医学会
日本静脈麻酔学会
日本老年麻酔学会
日本麻酔集中治療テクノロジー学会



外 来 診 療 担 当 医 師 表 R 5 年 6 月 19 日より

科 診 察 目 室	第1内科	第2内科	第3内科	小 児 科	整形外科	外 科	泌尿器科	脳神経外科	形成外科 皮膚科	2階外来	内視鏡	人工透析		
月	午前	山 名	安 城	加 藤	元 木 <small>(獨協医大)</small>	八 巻 大 鶴 <small>(9:30~)</small>	木 村 <small>(9:30~)</small>	井 上 獨協医大 <small>(11:00まで)</small>	鈴 木 (亮) <small>(獨協医大)</small>			陳 (上部)	坂 東	
	午後	志 村 <small>(獨協医大)</small>	橋 本		佐 々 木 <small>(獨協医大)</small> <small>(17:00まで)</small>	大 鶴 <small>(16:30まで)</small>	渡 邊 <small>(16:30まで)</small>	井 上 <small>(16:30まで)</small>	鈴 木(亮) <small>(16:30まで)</small>		安城(2階) <small>(心工コー)</small>	陳 (下部)	坂 東	
火	午前	宇佐神 <small>(獨協医大)</small>	関 根	佐 藤 <small>(獨協医大)</small>	村 上 <small>(獨協医大)</small>		吉 野	井 上 第2、4週 <small>(11:00まで)</small>				加 藤 (上部)	大 坪	
	午後	中 野 <small>(16:30まで)</small>	田 中	佐 藤 <small>(独協時無呼吸症候群 第1・2・3・4診察)</small> <small>(17:00まで)</small>	村 上 <small>(17:00まで)</small>		獨協医師 <small>(16:30まで)</small>	井 上 <small>(16:30まで)</small>			安城 <small>(心工コー)</small> <small>(PM2:00~4:30)</small>	加 藤 (下部)	坂 東	
水	午前	嶋 田 <small>(獨協医大)</small>	橋 本	竹 田 <small>(獨協医大)</small> <small>胃腸・呼吸器科</small>	大 戸 <small>(獨協医大)</small> <small>(17:00まで)</small>	香 川	東大医師	手 術 日	杉 浦 <small>(獨協医大)</small>			善 利 <small>(心工コー)</small>	加 藤 (上部)	加 藤
	午後	嶋 田	善 利 <small>(17:00まで)</small>		大 戸 <small>(17:00まで)</small>	香 川 <small>(16:30まで)</small>	渡 邊 <small>(16:30まで)</small>	手 術 日					東大医師 <small>(下部)</small>	加 藤
木	午前	関 根	善 利	大 原 (不定期) (糖尿病)	神 津 <small>(獨協医大)</small>	八 巻	東大医師	井 上 <small>(11:00まで)</small>		形成外科 中 嶋 <small>(東京大学)</small>			坂 東	
	午後	安 城 <small>(14:30~)</small>	善 利 <small>(17:00まで)</small>	赤 座 (糖尿病)	神 津 <small>(17:00まで)</small>		吉 野			中 嶋 <small>(東京大学)</small>			坂 東	
金	午前	橋 本	尾 崎 <small>(獨協医大)</small>	中 野	秋 山 <small>(獨協医大)</small> <small>(17:00まで)</small>	松 永	木 村 <small>(9:30~)</small>	杉 江 獨協医大 <small>(11:00まで)</small>	鈴 木(謙) <small>(獨協医大)</small>	皮膚科 近 澤 <small>(独協10:30まで)</small>			加 藤 (上部)	長 堀 <small>(獨協医大)</small>
	午後	秋 好 <small>(獨協医大)</small>	尾 崎 <small>(獨協医大)</small>		秋 山 <small>(17:00まで)</small>	松 永 <small>(16:30まで)</small>	谷 澤	杉 江 <small>(16:30まで)</small>						加 藤 (下部)
土 日	午前	長 主	交替制	赤 座 <small>(独協時) 月1日</small>	小 野 <small>(獨協医大)</small>		東大医師		兵 頭 不 定期 獨 協 医 大	東大形成 <small>(東京大学)</small>	齊藤(2階) 漢方内科 <small>(10:00~11:30)</small>		午前・午後 交 替 制	

◎ 受付時間
月～土曜日(午前) 8:00～11:30 (診察開始時間 9:00から)
月～金曜日(午後) 13:00～17:30 (診察開始時間 2:00から)

◎ 休 診 日
土曜(午後)、日曜、祝日、年末年始

〒344-0022 春日部市大畑 652-7
医療法人社団 東 都 春 日 部 病 院
全 仁 会
電 話 0 4 8 - 7 3 9 - 2 0 0 0

医事課紹介

医事課では外来(初診時・再診時)受付の対応、患者様のカルテID作成、年1回ある春日部市の市健診や小児科の各種予防接種の予約対応、入院時の受付、退院時精算対応、レセプト請求を主に行っている部署になります。最近では大人の方の発熱外来の電話での受付対応もしています。また、外来で手術した場合や入院した際など保険会社あての診断書や各種文書対応も受付にて行っています。3階A・B棟、4階にはクラーク担当がおり、事務的作業などもしています。

近隣が武里団地という事もあり、来院される患者様もご高齢者からお子様まで様々です。また、外国の方も来院されます。外来を受診される際も入院し退院される際も患者様にとって気持ちよく対応できるようにしていきたいと思ひます。



編集後記

小雨の続く梅雨の時期となりました。
 新年度から内科常勤医師 中野秀磨先生、麻酔科常勤医師 長田 理先生の入職が有りました。
 現在、元気に診療に取り組んでおります。皆様、宜しくお願い致します。

編集担当：病院広報委員会一同